

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立西小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立西小学校	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11059/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立西小学 校	https://edu-mizuho.com/sunisi/20240214_10897	https://edu-mizuho.com/sunisi/20240214_10897

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

保護者及び地域住民に対して年に1度公表会か研究発表会を実施したり、年に数回の授業参観を実施したりすることで、特別の教育課程を瑞穂市が実施していることを感じ、共に考えることができる場を設定している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

瑞穂市では、外国人児童生徒が毎年増加傾向になっている。本校でも外国人児童が増えつつある。このような中で、文化や言語の違いを乗り越えて、どの児童も、グローバルな視野をもち、楽しく学校生活を送ることができるように、互いを尊重し合うことが、これからさらに求められるようになる。そのために、コミュニケーションのツールとなる英語を低学年の早い段階から導入している。低学年では、英語表現に慣れ親しんでいくことに力を入れて音声面を中心に取り組むことができ、楽しくコミュニケーションをとることができてきている。今後、さらに中学校への接続が順調にいくように考えていく必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例では1・2年生が年間25時間の外国語活動の授業、3・4年生が年間35時間の外国語科の授業、5・6年生が年間70時間の外国語科の授業を行っている。

外国文化に触れることが多くなる中で、グローバルの視野をもち、自分の考えや気持ちを英語で伝えながら、積極的にコミュニケーションを行うことができる児童の育成は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成に大きく関わってくる。また、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うことにも関わってくる。義務教育9年間を通して、どのように育成していくかを今後も考えていかななくてはならない。

4. 課題の改善のための取組の方向性

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点をおいて発達段階をふまえた具体的な評価を検討する必要がある。児童にとって、身近なコミュニケーションの場面を設定し、取り扱う表現について複雑にならないようにして、積極的にコミュニケーションを図ることができるような指導を行う。